地域ぐるみの脱温暖化をめざす

北広島町に県内22番目の地域協議会

「脱温暖化笑コきたひろ」発足

平成二十二年二月二十二日、北広島町に県内で二十二番目となる地域ぐるみで脱温暖化を目指す地球温暖化対策地域協議会の設立総会が千代田中央公民館で開催された。町民八十五人が参加し、役員や会則、事業計画などについて審議を経て、午後二時二十二分二十二秒「脱温暖化笑コきたひろ」が誕生した。

これまでは、北広島町公衛協が「北広島町脱温暖化八カ条」の制定・普及や「学習会」の実施、オリジナルの環境家計簿「脱温暖化エコライフカード」の実施・集計など脱温暖化活動に力を入れてきた。今後は、脱温暖化の取り組みを広げるにはさらに多くの方の協力が必要不可欠と考え、「商工会」「食生活改善推進協議会」「女性会」「老人クラブ」「町」に参加を呼びかけ、地域ぐるみで町全体の脱温暖化を目指していくこととして、地域協議会を設立したもの。

「脱温暖化笑コきたひろ」は、ニコニコしながら脱温暖化活動に取り組めるよう、無理なく楽しくをキーワードに命名された。これから、北広島町脱温暖化八カ条の推進、地球温暖化防止に関する情報収集と公開、町の地球温暖化対策に係る計画の検討と実施などの活動を実践していくこととなる。

設立総会では、県内で積極的な活動を実践している地域協議会の中から、「エコフォーラム　わだ！」「地球温暖化対策はつかいちさくら協議会」「脱温暖化プロジェクトせら」の三団体による「県内のTEAMあれこれ」と題したリレー講演が行われ、中山間地域の特徴を活かした活動や、出前講座、町の計画との関連などが紹介された。

会長に選任された藤田千紀枝さんは、「降雪量や気温の変化など身の回りの変化に危機意識を共有し、北広島にあった取り組みを実践していきたい」と締めくくった。

現在、県内の地域協議会は、それぞれの地域の特徴を活かした活動を実践している。今後も当センターは地域協議会とともに脱温暖化のまちづくりをめざしていく。

（脱温暖化センターひろしま）

設立宣言後、あいさつを行う地域協議会の役員

これまでの活動を会場内で紹介

県内各地から推進員が参集

今後の活動のヒントなど情報交換

脱温暖化センターひろしまは、県内の地球温暖化防止活動推進員が各地域での実践事例や課題・情報等を共有しながら交流を深めるとともに、今後の活動のあり方を探っていこうと、二月二十四日に広島市西区民文化センターで「脱温暖化推進員フォーラム」を開催し、推進員百七人が集まった。

午前中は、講演として「地域の温暖化対策～地球温暖化防止活動推進員の意義と課題～」と題し、東北大学大学院文学研究科教授（ストップ温暖化センターみやぎセンター長）の長谷川公一氏が、推進員の役割を提示したうえで、アンケート調査の結果から得られた広島県の推進員の特徴と課題点を指摘。さらに、気候変動枠組み条約第十五回締約国会議（COP15）に関する最新情報も提供していただいた。

その後、ランチョンセミナーとして、昼食をとりながら各地域での実践活動を自由に紹介し合い、楽しく情報交換を行った。また、会場には日頃の活動で使用している自慢のグッズやオリジナルの教材等を展示し、推進員同士でさまざまな意見が交わされるなど、大いに盛り上がった。

午後からは、「省エネ診断」「出前講座」「自転車の活用」「高校との連携」「自然を切り口にした脱温暖化活動」「行政とのパートナーシップ」の六つをテーマとしたグループに分かれ、それぞれの活動をもっと広げるためにどんなことが考えられ、それらを実施するために推進員の力量形成に必要なものについて協議した。午前中の講演で、推進員の役割を改めて認識したこともあり、活動への熱い思いやさまざまな意見が飛び交った。

フォーラム終了後、参加者からは「今後の活動に役立つヒントが得られ、大変参考になった」「新たな取り組みの一歩を踏み出す力をもらえた」といった声が聞かれ、今後の活動への熱意と前向きな姿勢が感じられた。

（脱温暖化センターひろしま）

脱温暖化推進員フォーラム

推進員が持ち寄った展示品を手に情報交換

世羅町でまちづくりフォーラムを開催

ポスターセッションで活動を紹介

農業映画を通じて脱温暖化を訴える

「脱温暖化せらのまちづくりフォーラム」が三月六日、せら文化センターで開催された。脱温暖化プロジェクトせら、世羅町そして脱温暖化センターひろしまの三団体の主催で開催されたもので、世羅町民ら二百五十人が参集した。

このフォーラムは、ポスターセッションと映画上映の二本柱で構成。ポスターセッションでは、脱温暖化プロジェクトせらが今年度からスタートさせた七つの地域発重点プロジェクトの活動紹介が行われた。担当者がそれぞれ展示ブースに付き、展示や体験コーナーを通じて今年度の実践活動を紹介。来場者はブースを行き来しながらさまざまな取り組みにふれた。「農から温暖化NOを進めるプロジェクト」では、フードマイレージ（農産物の輸送による環境負荷の指標）の説明や、試食付きで町特産品の大根やキの旋律～」を上映。これは、「食と農の映画祭ーNひろしま」の協力で実現したものである。物語は、家族の重圧からひきこもりになってしまった主人公を、有機農業を実践する青年との出会いが徐々に変えていき、農業体験を通じて次第に自分を取り戻していくという内容。主人公が生きる力を取り戻していく人間再生の傍らで、農業の衰退、食料自給率の低下、海外からの輸入食材の氾濫、そこから引き起こされる環境問題、地球温暖化も取り上げられている。

来場者からは、「町内の身近なところでこのような温暖化防止が取り組みまれていることを知ることができ、良い機会になった」「映画を通じて、改めて農業の素晴らしさを感じた」「今後もこのようなイベントに参加したい」と言った感想が寄せられ、盛況のうちに終了した。

（地域活動支援センター）

熱心にポスターに見入る参加者

展示ブースにて、プロジェクトの活動を紹介するメンバー

住宅用太陽光発電導入支援対策事業　広島県窓口の閉鎖のお知らせ

経済産業省の住宅用太陽光発電システムの設置に関する補助制度については、これまで各都道府県窓口が申請の受付事務を行い、「太陽光発電普及拡大センター（略称J－PEC」が管理運営し補助制度の執行にあたってきました。平成22年度からは、各都道府県窓口が閉鎖されることとなり、環境保健協会も広島県窓口を閉鎖することになりました。今後の問い合わせはJ－PECにお願いいたします。

問合せ先　太陽光発電普及拡大センター（J-PEC）
〒261-7112 千葉県千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト12F
TEL：043-239-6200　FAX：043-239-6201
URL：http://www.j-pec.or.jp

これまでの申請受理件数

（全国申請受理件数）
平成20年度：21,762件（平成21年1月13日～平成21年3月31日）
平成21年度：137,177件（平成21年4月1日～平成22年3月31日）
（広島県申請受理件数）
平成20年度：673件（平成21年1月13日～平成21年3月31日）
平成21年度：3,639件（平成21年4月1日～平成21年12月31日）

※平成22年度補助金制度については、J－PECのホームページをご覧ください。